



← 聖書に出てくるすごく  
小さな「からしだね」

# Weekly Michael's News

## <今週の聖句>

2018年6月18日発行 No.73

『神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。』

(マタイによる福音書 第4章30～32節)

## <Welcome to KIU!! ベトナムの学生を迎えて Summer Study Program 2018 が開催!!>

この度、神戸国際大学はベトナムの提携校である UEF (University of Economics and Finance, Ho Chi Minh City) から 17 名の学生さんを迎えて、Summer Study Program 2018 を開催しました!! 期間は一週間ですが、神戸だけでなく京都や大阪 (USJ を含む) など、関西の魅力をたっぷり味わえるスケジュールとなっています。KIU としては、ここで日本の文化や語学研修に関心を持ってもらい、留学生として繋がっていきたいと考えます。生憎の小雨が降る中でしたが、開会礼拝をチャペルで挙行、元気な学生さんの歌声と共にプログラムの幕が開かれました。これから様々な機会を通して世界からの注目を集める日本で、更に有意義な学びを積み重ねる事ができるように、今回の出会いを活かして欲しいと思います!!



ようこそ!! KIU へ!!



歌の練習の成果もバッチリ!!



有意義な一週間をお祈りしています

## <月曜の朝を襲った突然の巨大地震!! 目と耳、そして心のアンテナを敏感にしていきたい!!>

昨日の朝、私が六甲ライナーに乗った途端、乗客の持つ携帯・スマホの警告アラームが一斉に鳴り出しました。「地震か!?!」と思った次の瞬間にはドンという大きな音と共にライナーの床が抜けるかと思うくらいの縦揺れが!! そこから一切の交通機関が不能になり、午前 10 時半を過ぎてても回復が見込めない所で大学も全日休講。私が自宅に帰ったのは午後 8 時を回った頃でした…涙。その後の報道で 4 人の方が亡くなられ、370 人を超える負傷者が出ています (19 日午前現在)。亡くなられた方の命を思う時に考えさせられるのが、このような非常時に自分の中の優先順位をしっかりとっておく事の重要性です。まだ余震の可能性があり注意が必要ですが、変化する状況や洪水のような情報に流されるのではなく、「命」を第一としながら確実な判断を心掛けたいですね。



過去の地震被害を教訓に…

## ＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

6月11日（月）テーマ：「時間の余裕が心の余裕に繋がる」 中西 亮介（リビリーション学部）

道に迷ったり荷物を持って困っている高齢者を見かけたら、皆さんはどうするだろうか？こちらの時間に余裕が無い時には、あまりそのような人の存在が目に入らない。逆に少しゆっくりしている時ほど困っている人の存在に気付くように思う。この事象に気付いた時、私はショックを受けた。PTとして病院で勤務する時に、患者の細かい変化を注視し、細やかな配慮を心掛けてきたつもりであったが、改めて心の余裕、それを生み出すための「時間の余裕」の大切さを感じた瞬間でもあった。人間は、急ぐと周りが見えなくなる生き物だ。皆さんもスケジュール管理をしていると思うが、まず時間に余裕を持って行動してみたい。

6月12日（火）テーマ：「ファッションマジック」 山本 ひとみ（経済学部）

皆さんはファッションや着こなしに関心があるだろうか？面白いのが七五三などで小さい子供が着物やスーツ等でおめかしをすると、魔法のように表情までぐっと変化する事がある。よく「人は外見ではなく中身だ」という言葉を聞く。確かにそうかも知れないが、逆に服装を正す事によって心を整えるという事もあるはずだ。「おしゃれ」とはお金をかけて流行を追い求める事ではない。むしろ自分に何が似合うか、何が自分らしいかを吟味する事だ。ココ・シャネルは「着るものを選ぶ事は、生き方を選ぶ事である」という名言を残している。学生の皆さんは、今だからこそ色々な髪型や服装を試してみて、真の「自分らしさ」を確立して欲しい。

6月13日（水）テーマ：「卒業研究のすすめ」 仲 久則（経済学部）

私の担当するゼミでは、「卒業研究」（論文でなく）に取り組んでいる。各自関心を持った事例に対し一次データを集め、それを基本としながら仮説を立て更に情報収集を行う。ここで課題になるのが「データの集め方」だ。Wikipedia や yahoo 知恵袋などは一次データと呼ぶず、記述内容が間違っている事も珍しくないので気を付けたい。価値ある記述に出会ったなら、そのソース・原典を当たる事も必要であり、その文章の信用度も計るようにしたい。検索の達人になるには、数多くのデータに当たるしかないが、それらを包括する大きな物語（メタ・ストーリー）の存在にも目を向けたい。有意義な学びの機会が、皆の人間的幅を拓ける事を願う。

6月14日（木）テーマ：「求めよ、さらば与えられん」 中村 浩（経済学部）

聖書の名言「求めよ、さらば与えられん」、私がこの言葉の本当の意味を知ったのは大学院に入ってからだ。私は数学にかなりの自信を持って数理経済学専攻で大学院に進学したが、先輩方のレベルは全く自分の手の届かない所にあった。どんなに頑張っても追いつけない私は先生に薫をも継る思いで相談した。するとクリスチャンである先生から「求めよ、さらば与えられん」という言葉の意味を問われた。そこから私は、時に吐き気さえ感じる程数学に没頭した。「求める」という姿勢の根底にある厳しさ、命懸けで目指す生き様を問われている様に思う。

6月15日（金）テーマ：「見ザル 言フザル 聞カザル」 野間 光顕（チャブレン）

今、京都大学が立看板を巡って揉めている。京都市の景観条例により昨年末から規制が始まって今年には大学当局によって強制撤去された。私はこの騒動を聞く度に心を痛める。なぜなら「強制撤去」という措置が、立看板の持つ「意味」や学生の「存在」を傷つけているのではないかと考えるからだ。同時に想像するのが、イエスの時代もこれと同じだったのではないかと？という事。イエスは当時の権力者に迫害されながらも、それをユーモアの力で返している。現在日本は「コミュニケーションの断裂」という病に罹患しているようにも思うが、6月後半を迎えたこの時、今一度自分の周りにあるつながりに一時心を留めてみたい。（文責：野間 光顕）